

人権主日
説教

執り成してください

<ローマの信徒への手紙8:26~28>

李相勁 牧師（川崎教会）



在日大韓基督教会の人権主日は「第38回定期総会（1985年10月22～24日、於 福岡教会）において1923年9月1日の関東大震災が起こった際、約7,000人の朝鮮人がデマに煽動された人々によって虐殺された歴史を記念する意味から毎年9月の第1主日を人権主日」（『礼式書』より）と定められました。9月18日は「KCCJ第19回国人権シンポジウム」がKCCJにて行われます。「在日大韓基督教会（KCCJ）」は、今年2023年に宣教115年を迎えます。韓半島（朝鮮半島）と日本の狭間を生き抜いた『在日キリスト者』（寄留の民）の歩みを振り返るとともに、与えられている使命を再確認したいと思います」と案内をしています。

今年は「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺から100年」であり、9月3日、東京教会において「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」が行われます。そこで、キリスト者や教会は何をしていたのか、何をしなかったのか。その問いに自らを省みることの願いが案内文に記されています。「2023年9月1日、10万人を超える死者・行方不明者を生んだ関東大震災虐殺から100年を迎えます。100年前の大震災で、自然災害とは別に、流言蜚語を確認もなく事実として認定した軍隊と官憲、そして民間人による自警団によって、6,000人以上の朝鮮人（また700人以上の中国人）が虐殺（ジェノサイド）されるという大惨事が起きました。関東大震災から100年がたつ今、私たちキリスト者は問われているのだと思います。あなたはどこに立つか？と。この問いの前に立ち、私たちは自らを省みつつ、…開催したいと願います。」

在日本韓国YMCAの資料室には「関東大震災と朝鮮人虐殺」に関する資料が展示されています。その中で、震災で焼失してしまった会館の跡地に集まった当時のYMCA会員たちの写真があります。在日本韓国YMCAニュースレター『かけはし』第12号には、その状況の説明があり、抜粋して紹介いたします。

「関東大震災発生後、朝鮮人が放火、襲撃、井戸への毒薬投下を行ったなどという流言飛語（デマ）が拡散し、それを信じた軍や日本人民衆によって、…朝鮮人が数多く虐殺されましたが、ここに写る人たちも危ういところで命拾いをしています。地震発生後、YMCAの幹事や会館に住んでいた寄宿舎生たちは焼失した会館を後にして、いったんは長崎村（現在の豊島区）にあった崔承萬幹事の自宅に移動しましたが、そこから板橋警察署に強制的に連行され、その後一ヶ月余りをそこで過ごすことになりました。崔承萬氏は回想録において、長崎村への移動途中で武器を用意した在郷軍人と自警団に胡散臭い目つきで見つめられたこと、自らが警察官と同じ自動車に乗っていたにもかかわらず「朝鮮人を降ろせ」、「われわれに引き渡せ」と騒ぐ

群衆によって何十回も引きずり出されそうになったこと、さらには拘留されていた警察署内で危うく群衆の襲撃を受けそうになったことなどを書き残しています。」

ローマの信徒への手紙8章には、被造物のうめきと希望が語られ、絶望的な現実と未来への希望が交差していると思います。「靈」も弱いわたしたちを助けてください。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、「靈」自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してください」と記されています。

使徒パウロの時代はローマ帝国が支配していた現実でしたが、いまの世界の現実も「人間の欲望」による戦争、格差、貧困、ヘイトスピーチ、差別などさまざまな課題にうめき、なげきは絶えることがないと思います。

歴史の中で起こっている苦しい出来事の中に私たちの「うめき、なげき」を言葉に表せない「うめき」をもって、わたしたちのために、神の御心に従って、執り成してください、寄り添う聖霊の導きに励まれます。

わたしたちが「限界」を感じ、なげき、うめいているとき、助けてくださる聖霊の導きにより、互いにかかわり、共感し、御心が行われますようにと祈り合う、分かち合いと連帯の希望が与えられました。うめきを希望へと導かれる恵みに感謝いたします。

「主よ、どうかお赦しください。誰一人とり残されずすべての人が人間として、日々この社会に生きる住民として、その尊厳が守られますように。そのために、住民相互の異文化間の交わりがいっそう深められ広められ、法制度を含む社会の仕組みが整えられるようにしてください。特に今日、新型コロナのパンデミックにより、世界中が未曾有の困難な状況に直面しています。困難な状況にあっても、互いの信頼感がますます豊かに育れますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。」（2022年「人権主日礼拝 祈祷文、交説文」より）



震災で焼失した会館の跡地の前で同時のYMCA会員

オンラインセミナー開催 「ポストコロナ時代の宣教課題」主題で

3年以上のコロナパンデミックがある程度収まりつつある今、今後のポストコロナの時代における宣教課題を共に模索するため宣教委員会が8月20日（主日）午後7：30～9：30までオンラインズームを通して「ポストコロナ時代の宣教課題について」というテーマに基づき、宣教セミナーを開催した。

セミナーは宣教委員長趙永哲牧師（大阪北部教会）の挨拶と祈りをもって始められ、委員長の講師紹介の後、講師の張聖培牧師（監理教神学大学の宣教学教授）による講演があった。張教授は自身の最新の著書『メタバース宣教によって宣教の業を拡張しよう』という本の内容を中心にコロナパンデミック時代の後、ポストコロナ時代において教会が直面している様々な課題について語りつつ、特に第4次産業革命と呼ばれる現代の時代において教会が様々な宣教課題を解決していく方法について提案した。具体的な方法としてデジタル世界であるメタバースの世界に囲まれている人間の中で、教会がないことを指摘し、メタバース教会の必要性を強調し、未来の教会宣教のために準備すべきことを主張した。

今回の講演はまだ慣れてない用語や提案があったものの、未来の教会像あるいは宣教の方法を準備するために色々模索して行かなければならぬ新しい挑戦となつた。

講演の後、宣教委員張慶泰牧師（船橋教会）の司会で質疑応答の時間があった。その後、委員長の感謝の言葉と副総会長梁榮友牧師（武庫川教会）の祈りをもってセミナーを終えた。

今回のオンラインセミナーの出席者は49名であった。参加して下さったすべての方々に心から感謝したい。**(報告:趙永哲牧師)**



結成60周年開催を準備 全国教会に参加と祈り、奉仕を要請

青年会全国協議会（全協）は、23年11月3日に大阪教会にて、全国の青年、様々な信徒で60周年を記念する場を持つ。説教／讃美／証／祈祷を通して、青年たちはどう生きるか、信仰成長のために何ができるか、を分かち合う。

全国にいる教会青年の参加を待ち望んでいる。全国の諸教会の皆様にはぜひこの記念大会にご理解ご協力、お祈りをお願いしたい。

また、青年が励まされ、靈的に強められるよう、奉仕者を募りたい。青年へのメッセージ／助言、青年宣教／育成の提言、特別讃美、その他青年のためになる活動など、ご協力いただける方にはお問い合わせ願いたい。

全協役員は、青年一人一人とのつながりを強めるべく、仕事の合間に縫って個教会訪問を重ねた。東京・横浜・川崎・別府・名古屋・神戸など。今後も訪問を続ける。俯瞰すると、子ども／青年の教会離れ、青年会の先細り、証／伝道活動への意気消沈、などがみられる。だが、役員が訪問した現場で見聞きした中では、活気溢れる場もある。神様に祈り求め、信徒が一丸となって望むなら、明るい未来が描けると確信している。

連絡先:zenkyokccj@gmail.com

(報告: 嚴智用 代表)

リバイバルキャンプ開催 ベトナム青年60名が参加

8月14日（月）～16（水）の2泊3日間、平野教会青年会は三重県名張市カリスリフレッシュセンターにて、青年たちの靈性と信仰生活に新たな活力を吹き込むために「リバイブル」という主題で、2023年度青年会夏のキャンプを開催した。東京から、岐阜から、福岡から参加したベトナム青年たちとベトナム現地から参加した何人かの信徒もいて、夏の熱気に打ち勝つ恵みで熱いキャンプを持つことができた。

平野教会は、青年会員のほとんどがベトナム人で構成されている珍しい形をなしている。そこで今回の夏のキャンプではベトナムからのレティホップ牧師をメイン講師として迎え、日本語ではなくベトナム語で直接伝える恵みの御言葉の時間を持った。また、様々なレクリエーションやバーベキューをはじめとする靈肉共に、心も体も豊かな恵み溢れるキャンプとなった。

ちょうどその時、台風7号が北上して三重県に上がる時間とキャンプの期間が重なったので、緊張してより多くの祈りで準備したが、台風は夜の間に過ぎ去ってしまい、神様はむしろ涼しい夏をプレゼントする形で私たちの祈りに答えてくださった。今回のキャンプを通して多くの人々が恵まれた証をし、その中で4人の人がイエス様を受け入れ、クリスチヤンになる決心をした。

ハalleluya！ 神様が与えてくださる驚くべき恵みと聖霊の油注ぎを体験したとても恵まれたキャンプであったことをお伝えし、主に栄光を捧る。



三役会議及び研修会開催 福音絵手紙の描き方の講習を受講

西部地方教会女性連合会は第20回三役拡大連席会議と研修会を7月6日（木）午後1時から武庫川教会にて出席者14名（3教会）で開催した。コロナ禍の影響で各教会女性会の活動が縮小されるなかで、西部女性会では各教会の行事などに合わせて教会訪問をして各女性会からの要望などを共有できるよう祈りつつ進めていく。

研修会では、前回たいへん好評であった福音絵手紙の描き方の講習を福田朋子氏（川西教会執事）から受けた。聖書箇所からイメージされた講師オリジナルの下絵に、参加者は顔彩で色を付けながら、受け取る人に聖書のみ言葉が届くよう祈りと願いを込めて制作した。



「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」 宣言 文(要約)

2023年9月に、関東大震災時の虐殺より100年をむかえるにあたり、私たちは、朝鮮人・中国人が虐殺された事実に向き合い、今の私たちの在り方を問う重い課題を共に担うために集まりました。

関東大震災後の混乱の中で、6000人以上の朝鮮人と700人以上の中国人が虐殺される大惨事が関東全域で起こりました。大虐殺の元となる「不逞鮮人暴動」の流言蜚語（りゅうげんひご）の流布を内務省・官憲が主導し、軍隊・官憲・行政の指示による自警団を組織することによって虐殺に民衆を加担させました。さらに政府は後の虐殺の実態調査を妨害し、報道を統制することによって事実の徹底的な隠ぺいを図りました。そして、裁判では、虐殺に関与した軍部と官憲は誰一人その責任は問われず、裁判に引き立てられた自警団員も翌年1月の皇太子の結婚による特別恩赦で全員が無罪放免されました。この不条理に対する国家責任と民衆責任がこれまで100年間問われることなく、沈黙されてきたのです。

朝鮮人虐殺は関東大震災時に初めて起ったことではなく、朝鮮半島強制併合の以前から、植民地支配に抵抗する民衆運動を朝鮮総督府が徹底弾圧したことと地続きのものでした。1919年の3・1独立運動の徹底弾圧、1920年秋の中国島省撃（こん）春（しゅん）では日本軍によって3000人もの朝鮮人が虐殺されています。植民地支配からの独立を求める朝鮮民衆を「討伐」（殲滅）してきた軍や警察の敵愾心と恐怖心が、「不逞鮮人」というヘイトとして本土の日本の民衆にも広まる中で1923年の大虐殺（ジェノサイド）は起きました。

敗戦後78年が経過した今に至るまで、政府と日本社会はある100年前のジェノサイドの歴史に向き合えず、その歴史責任を不間にし続けました。国家責任に関する国会質問に対して逃避答弁が繰り返され、また東京都の虐殺犠牲者への追悼文の中止が起こっています。さらに、朝鮮学校無償化除外という官製ヘイトと共に民族差別的ヘイトは現在の日本社会に止むことがありません。

同時に私たちは、「あの時、教会は何をしていたか？」と問う主イエス・キリストの御声を聞きます。殺戮が広がる中で当時の教会は傍観者であり続け、殺戮を免れようと逃げ惑う朝鮮人・中国人に扉を開かず、沈黙を守った事実から私たちは目をそらすことはできません。

関東ジェノサイドから100年の今、復活の主に呼び集められ、「地の塩、世の光」として世に遣わされる私たち一人ひとりは主の十字架の前に立ち帰りつつ関東ジェノサイドの歴史に向き合い追悼の営みを継承していきます。そして、今新たな戦争への不安の高まる時代に、敵意と差別が生み出す暴力に沈

黙することなく、眞実の和解と平和を導かれる主に従う証人として、「最も小さくされた」（マタイ25章40節）いのちと共に生きる宣教の道を歩んでいきます。また私たちは黙認という自らの罪を悔い改めつつ、少数者を排除する社会の在り方と闘い続けます。

2023年9月3日

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年キリスト者追悼集会

（作成：「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年キリスト者追悼集会」実行委員会）



2023年9月1日、10万人を超える死者・行方不明者を生んだ関東大震災虐殺から100年を迎えます。

100年前の大震災で、自然災害とは別に、流言蜚語を確認もなく事実として認定した軍隊と官憲。

そして民間人による自警団によって、6000人以上の朝鮮人（または700人以上の中国人）が虐殺（ジェノサイド）されました。

関東大震災から100年がたつ今、私たちキリスト者は問われているのだと思います。

あなたはどこに立つの？

この間の前に立ち、私たちは自らを省みつつ、

「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」を開催したいと願います。

「わたしたちは忘れない」

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会

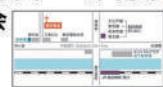
日時：2023年9月3日（日）16:00～17:30

会場：在日大韓基督教会東京教会

〒162-0027 東京都新宿区若宮町24

<http://www.tokyochurch.com/>

会場地図



メッセージ：金鉄洙 牧師

開催委員会100周年追悼事業推進委員会 執行委員長

韓国基督教長老会 牧師

参加費無料・申込不要（会場での貢献金があります）

以下のリンクからオンライン配信を視聴できます。

<https://youtube.com/live/lkVMTBC5GDU?feature=share>

※配信に関する詳しい情報はNCCホームページにも掲載しています。



主催：「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」実行委員会

共同代表：吉高 叶（日本キリスト教協議会議長）

金鉄洙（在日大韓基督教会総幹事）

光正一郎（日本カトリック正義と平和協議会）

関西聖書神学院主催 聖地巡礼案内

関西聖書神学院（学院長 金武士牧師）は以下のようにイスラエルを中心とする聖地巡礼を計画しています。

関心がある方は教務趙永哲牧師（080-5318-9058/06-6371-1914）、鄭然元牧師（090-8384-3199/06-6712-3377）にご連絡ください。

- 題目：イスラエル (이스라엘/Israel) 聖地巡礼
- 日時：2024年2月28日(水)～3月7日(木)8泊9日

牧師除名公告

在日大韓基督教会西部地方会治理部は、聖書・在日大韓基督教会憲法・規則・戒規・裁判規定・勸懲条例に基づき、教会の神聖と秩序を維持するために慎重に審議した結果、在日大韓基督教会西部地方会所属の地方牧師、金永柱（前西宮教会担任牧師）を以下のように判決する。

<主文>

被告人 金永柱を除名に処する。

2023年4月29日

在日大韓基督教会西部地方会治理部

部長 林英宰、部員 李重載 梁昌熙 金吉秀 韓世一

特別連載
7

1923ジェノサイドの記憶と十字架の信仰(7)

—関東大震災朝鮮人虐殺100周年を迎える—

金性済牧師(日本キリスト教協議会総幹事)

<7> ジェノサイド:歴史の封印と病んだ記憶

関東朝鮮人虐殺100年となる今年、5月23日、6月15日、20日と3回にわたり、国会において野党議員による虐殺の国家責任を問う質問がなされ、戦後70年後に当たる2015年から11回の質問が重ねられてきた。しかし、日本政府は、すべて「政府といたしまして調査した限りでは、政府内に事実関係を把握することができる記録が見当たらない」という答弁を繰り返してきた。1923年12月、山本権兵衛首相は、衆議院本会議でなされた田淵豊吉議員の質問に対して「熟考ノ上他日御答ヲ致ス」、そして永井柳太郎議員の質問に対して「政府ハ起リマシタ事柄ニ就テ目下取調進行中デゴザイマス、最後ニ至リマシテ其事柄ヲ當議場ニ懇(うつた)ヘル時モゴザイマセウ」と答弁し、結局何もせず、日本政府は戦前戦後100年間、大虐殺の事実を隠ぺいによって封印し、その国家責任を回避してきた。

負の歴史に向き合はず歴史を封印した結果とは何か。1943年、44年と、日本に米軍の大空襲が始まるころ、内務省警保局の記録には、空襲による大火災の原因が朝鮮人に擦り付けられ、再び虐殺の暴虐から身を守るために朝鮮人が警察に保護を求めてきたという記録や、反対に日本人はまた朝鮮人が暴動を起こして日本人を襲ってくるから、竹やりなど日本人が自宅に武器を準備し始めている、という記録が残されている(朴慶植『在日朝鮮人関係史料修正』第五巻、13頁、15-17頁)。すなわち、政府当局がいくら歴史事実を隠蔽し、虐殺事実を伝える言論を統制しても、人間の恐怖と、大虐殺を引き起こした流言飛語のゆがんだ記憶は消去することはできず、病んだ記憶として綿々と伝承されていったのである。

戦争が終り75年も過ぎた2020年の夏、NHK広島は、「ひろしまタイムライン」という企画を行った。それは、戦争の記憶をもたない若者に戦争の歴史に少しでも関心をもたせようと、1945年敗戦前後の時代にツイッターがあったという想定で、当時の中学生だった人の日記を借用し、NHKスタッフが

地元の高校生を集めて討議させて、当時の日本社会の光景を描写したツイートを作り上げるというものであった。ところが出来上がったツイートの中に「朝鮮人だ!!・・・戦勝国となった朝鮮人の群衆が、列車に乗り込んで来る!」という文言がツイッターSNSに公開され、それを見た在日コリアンを戦慄させ、市民団体はNHKに抗議し、話し合いを申し入れた。NHKはほどなく曖昧な謝罪文を発表したが、一切話し合いには応じず、この問題を封印する方針を貫いて今日に至っている。すなわち、NHK広島はこの問題に良心と理性をもってどう向き合ってよいか、思考停止状態に陥ったのであり、これが戦後日本の歴史隠ぺい(タブーを抱える)教育のひとつの結果ともいえる。もし、NHKスタッフや高校生たちが関東大虐殺の歴史、また敗戦前の空襲当時でさえ、敵意と差別と恐怖心が人々の心をゆがめ、日本人も朝鮮人も病んだ記憶に呪縛されていたという歴史を正しく学んでいたならば、果たしてあのようなツイートを悪びれることもなく作り上げていただろうか。

ジェノサイドの歴史を隠ぺいして言論統制した大日本帝国の政策を戦後の日本政府も封印し続けたことは、国家と社会、そして人間の中に病んだ記憶を伝え広げていき、やがてそこから新たに止むことなくヘイトクライムの脅威を噴き出させ続けるようになったことを、私たちは忘れてはならない。



<https://www.asahi.com/sp/articles/photo/AS20200916000201.html>

信徒委員会 主催行事のお知らせ

●全国聖書講演キャラバン始まる

信徒委員会では、教会活性化のための諸課題解決を目的に青年会再建、青少年育成に取り組んでいるが、今年度のメイン活動として9月から「全国聖書講演キャラバン」を開始させていく。これは全国五地方で聖書講演会を開催を通して、信徒の信仰的深まりを促す学び場を提供すること、地方会における教会や信徒のつながり強化の一環として実施することを目的としている。

まず始めに9月10日に西南地方(講師:総会長・中江洋一牧師、会場は福岡教会)、そして9月24日に関西地方(講師:同志社大学・木原活信教授、会場は京都教会)、そして11月5日も西南地方(講師:沖縄キリスト教学院大学学長・金永秀牧師、会場は大阪教会)で行い、西部・中部・関東地方の聖書講演会は来春に予定している。

この聖書講演会では学びを通じて信徒同士の交わりを大事にしたいと考えているので、ぜひ多くの教会関係者の参加をお願いしたい。

●全国青年修養会が10月に開催

今年は青年会全国協議会(全協)創立60周年記念集会が11月3日に大阪教会で開催される。その前段階で全国の青年たちが一堂に会し、信仰的成长や仲間の出会いとつながりを育む全国青年修養会が10月6日(金)~7日(土)にホテル・ロッジ舞洲(大阪市)で開催される。本来修養会は8月実施を計画していたが、異常気象の影響で安全確保のため今回は10月開催へと変更となった。

全国青年修養会もコロナ禍の影響等があり、開催されるのは4年ぶりとなる。この間、防疫のために在宅を強いられ、オンライン礼拝が主流になるなど教会離れの要因となっている。そんな中で開催される全協創立記念行事は、青年会活性化の為の神様の賜物の機会と捉えて全国の教会青年が集結して盛り上がることを期待している。

修養会に関する問い合わせ・申込は大阪教会(TEL(06)6712-3377 FAX(06)6712-3378)

担当:韓宣榮伝道師・梁陽日長老まで。